

## まちの話題



▲子孫・関係者らが出席する中に行われた川副春海住職による慰霊の読経



▶賢順の遺徳を偲んで披露された文化連盟による琴・尺八の演奏

7月13日、多久市文化連盟主催で筑紫流箏曲の創始者、諸田賢順を偲ぶ会が、多久町専称寺であり、子孫・関係者等約60人が先達の偉業に思いをはせました。

諸田賢順は、室町時代に筑後国で生まれ、久留米の善導寺で僧となり、古来の琴曲と浄土宗雅楽から琴（箏）独自の演奏様式『筑紫箏』を編み出し、日本の箏曲の基本を作ったとされています。後に多久領祖・龍造寺長信に招請され、生涯を多久で過ごしたとされています。

この日は、賢順の392回忌にあたり、慰霊の読経の後「六段の調べ」と『遠砧』の2曲が琴・尺八により演奏され「諸田賢順を偲ぶ」、「鳳凰の箏に寄す」などの献吟が奉納されました。

閉会では、最所和泉文化連盟副会長が「第1回は、平成3年に西溪公園で100箏の野外演奏会でした。諸田賢順や偲ぶ会のことを、もっと広く知っていただきたい」と述べて会を締めくくりました。

また閉会後は、出席者に『ちくし琴』という名の最中と抹茶のおもてなしがありました。

### 琴の音響く、核割れ梅の境内

#### 第24回諸田賢順を偲ぶ会

7月8日、警察協力章の伝達式が佐賀県警察本部で行われ、多久地区交通安全協会副会長の藤本昇さん（北多久町中多久）に対し、授与されました。

昭和46年4月から多久市交通安全指導員として、地元交差点での街頭活動や交通安全広報活動など永年にわたる交通事故防止活動の功績が評価されました。

親が守らなければ誰が守るという気概で始まった街頭での見守り、あいさつ活動。43年間、土日・休暇時期を除き毎朝、風雨もいとわず横断旗を持って登校する児童生徒の保護・誘導を継続されています。

86歳という年齢を感じさせない情熱と行動力の持ち主の藤本さん。朝5時からのウォーキングをかかさず、中多久ボランティア協議会、市ロータリークラブ、アバンセ花俱樂部等さまざまな社会貢献を生きがいとし「小学6年生が卒業式の朝、街頭でくれた『感謝状』が嬉しかった」と目を細め「年齢で機械的に役職が切られるのは嫌、自分の体が元気なうちは、社会に貢献したい。今後も『ありがとう』という言葉が返ってくるような生き方をしたい」と受章の喜びと抱負を語りました。

### 受章おめでとうございます！交通安全への功労

#### 警察部外功労者表彰（警察協力章）を授与



▲地域に根ざした長年の活動が評価されての受章おめでとうございます!!

7/16 Wed.

### 健康づくり栄養教室（いきいきセミナー）開講式



食に関する知識を深め、生活習慣病予防に通じる食習慣について、講義や調理実習で学習する健康づくり栄養教室（いきいきセミナー）の開講式を行いました。

今年度は各町より合わせて19人が、高血圧予防のための減塩料理や、食品衛生・食中毒、糖尿病予防の食事など全9回の講座を受講します。

式では、副市長が「食に関する知識を深め、地域の中での健康づくりのリーダーとして活躍されることを期待します」と受講生への期待を込めてあいさつしました。

7/16 Wed.

### 交通安全マナーアップキャンペーン



夏の交通安全県民運動にあわせ、幡船の里で「交通安全マナーアップキャンペーン多久」を行いました。

キャンペーンでは、小城警察署、交通安全協会、交通安全母の会、交通安全指導員会、日本公衆電話会、佐賀県自家用自動車協会などから34人が参加しました。

関係者は、交通安全の広報啓発チラシと桐岡ナスをドライバーに渡し、交通マナーの向上を呼びかけました。

現在県内では、昨年を大きく上回るペースで交通死亡事故が発生しています。交通事故に注意し、安全運転を心がけましょう。